

中学校サッカー部の指導者の コーチング・メンタルモデル

—全国大会優勝、日本代表育成経験のある指導者の事例研究—

Coaching mental model of junior high school football team's coaches in Japan

-The case study of football coaches who experience winning the championship and training national footballer-

1K08A079-0

指導教員 主査 堀野博幸 先生

木下 貴博

副査 吉永武史 先生

【序論】

スポーツ指導者が持つコーチング・メンタルモデルについて北村ら（2005）は、「指導者が選手の指導にあたり、心内に構築していく理解内容であると同時に指導の拠りどころとなるもの」と述べ、コーチング・メンタルモデルを明らかにすることで「その結果指導者の指導観、指導意図、及び指導行動の全体が明らかとなる（北村ら、2005）」と述べている。

中学校サッカー部を指導する監督のコーチング・メンタルモデルに関する研究が見当たらないため、本研究の第一の目的は中学校サッカー部の優れた指導者のコーチング・メンタルモデルを構築した。

【方法】

1. 対象者

- 1) サッカー指導歴 15 年以上.
- 2) 日本代表選手（日本代表 A マッチの出場経験を持つ選手）を育成した経験をもつ.
- 3) 指導に当たったチームを勝利に導いた経験がある（全国レベルの大会で優勝に導いた経験がある）.

2. データ収集方法

本研究では、北村（2005）、大森（2010）、および加藤（2010）の先行研究を参考に、指導者の指導行動がどのような哲学、理念、知識、価値観によって生起するのかを深層的に明らかにするために、1 対 1 の半構造的インタビューによりデータ収集を行った。

【結果】

指導者 A は、「全国大会の出場というのを目標に.」, 「人間形成」に指導の一番の重きを置いている. そして、選手の人間形成を重視した指導を行うことが、チーム全体の「パフォーマンスの向上」につながると考えていることが示唆された. さらに、「選手支援」については、「注意すると言えば、なんで遅いんだと. なんで時間に始まんないんだと. そんなことが多いかな技術的なことなんてほとんど言わないと思う.」さらに、「生活指導ってのは厳しくていいんだろうなって思う」

と指導者 A が述べていることから、「人間形成」への働きかけが強いことが示唆された. 以上のことから、図 1 に示したモデルが形成された.

指導者 B は、サッカーをプレーするオンザピッチにおいても、そのために遡って普段の生活であるオフザピッチにおいても、今何をすべきかを常に考えて行動することの重要性を強調している. これらを総合して指導者 B は、「準備」という表現を使っていることが示唆された. 「人間形成」と「パフォーマンス向上」に強く影響を与えている. また、「選手支援」は「人間形成」と「パフォーマンス向上」の両面に働きかけていることが示唆された. 以上のことから、図 2 に示したモデルが形成された.

【考察】

1. コーチング・メンタルモデルの構築

結果から全国大会優勝、日本代表指導経験のある中学校サッカー部の指導者のコーチング・メンタルモデルが構築された. これにより、本研究の第一目的は達成された.

2. コーチング・メンタルモデルの比較検討

1) 人間形成

指導者 A、指導者 B 共に、サッカーの指導者である前に、中学校教諭であることが、選手の人間形成に育成の重きを置いていることが示唆された.

2) パフォーマンス向上

このような差異が出た背景には、中学入学時点での選手のサッカーの技術に差がみられると推測され、このような、差異が生まれたと示唆される.

3) 選手支援

ここでも両指導者の間で、「接し方」に差異がみられた.

4) 準備

サッカーのプレー中はもちろんのこと、練習、試合、また学力試験にベストな状態で臨むために遡って普段の生活から何をすべきかを考えて行動すること重であると考えていることが示唆された.